

小学校教科担任制推進協議会

安芸高田市立吉田小学校



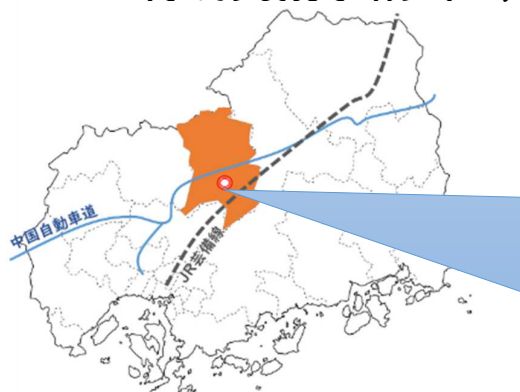
安芸高田市立吉田小学校

令和5年5月1日現在

全校児童294名

通常学級(12)

特別支援学級(2)



戦国時代 毛利元就の居城
「吉田郡山城」のふもと



安芸高田市立吉田小学校

学校教育目標

「自律」
～自ら考え行動する～



吉田小学校における教科担任制の取組

- ① 理科専科（第3学年～第6学年）
週合計24時間＋委員会・クラブ
- ② 社会・家庭・図画工作・体育の専科
（主として高学年）
- ③ 学級ごとの交換授業（可能な範囲で）

理科専科(第3学年～第6学年)について

- 各学年2クラスで授業を行っている。
- 時間割は年度初めに決定している。
- 行事や水泳指導以外は、可能な限り時間割を変更しない。
- 授業の進度をスムーズにして学期末にゆとりをもたせる。
- 授業準備は、週や月、学期の見通しをもち、前日までに行う。
- 授業の補完や欠席の児童対応については帯タイム等を利用しているが、十分とはいえない。
- ノートを活用し、児童の実態や進度などを確認している。児童は、理科関係についての相談は、専科に聞きに来ている。
- 理科関係の管理等は理科専科が行っている。

理科以外の専科や交換授業について

- 3年生以上の学年の体育は、専科教員が指導する。
- 6年生社会・図画工作は、専科教員が指導する。
- 理科の空き時間に、他の学年の教科を指導する。
- 学級担任としてそのクラスだけの児童を指導するのではなく、国語、算数、音楽、図画工作の授業を学年の中で交換している。

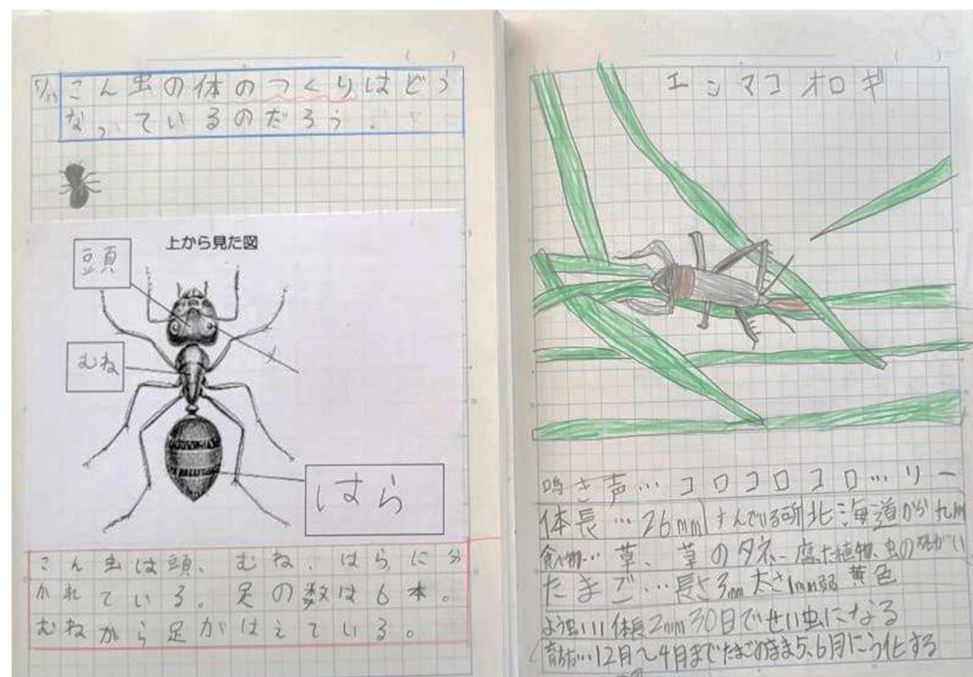


ホウセンカ
 マリーゴールド
 ヒマワリ
 ヒョウタン
 ヘチマ
 ジャガイモ

3年生～6年生までの理科に関する栽培植物の一括管理

児童のノートより(3年生)

・・・しっかり見て分かったことを自由にかこう。



児童のノートより(4年生)

…ヒトの体から他の動物を調べたい！

うでが曲がる時
・上のきん肉がちぢむ

・下のきん肉がのびる(ゆるむ)

うでがのびるとき
・上のきん肉がのびる

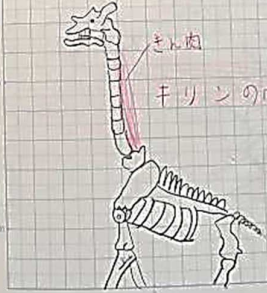
・下のきん肉がちぢむ

犬の骨の数…320こ
猫の骨の数…240こ
うさぎの骨は体の8%
その分きん肉が発達しており
体の50%がきん肉

首の骨
首が長いことで有名なキリンは、
意外なことに犬と同じ7こです。
その分1つの骨が長く、大人にな
ったキリンは1この長さが30cmぐ
らいです。

また、イマクモノ(9)やジュゴン
(6)など一部の動物をのぞいてほ
とんどの哺乳類は7こです。

骨格とは?
関節で結合した骨及び軟骨によっ
て構成される構造のことを骨格と
いいます。骨格には体を支えたり
外部のしょうげきから内臓を守
ったりする役わりがあります。



児童のノートより(5年生)

…既習の学習を生かしながら。

植物 たいね → 葉 → 花 → 実 → 種子

メダカ 卵 → 受精卵 → 幼虫 → 成体

① 卵で生まれてくる動物(卵生)
(メ) ニワトリ、ヘビ、メダカなど

② 親にいた姿で生まれてくる動
物(胎生) イヌ、ネコ、ウマ
※小さい間は母乳を飲む

※おなかには袋をもつ動物(袋胎生)
カンガルーなど

③ ヒト
※女性の卵 > 男性の精子 > 受精卵 > 生命の誕生

**母親の体の体内でどのように
育つのか。**

調べること

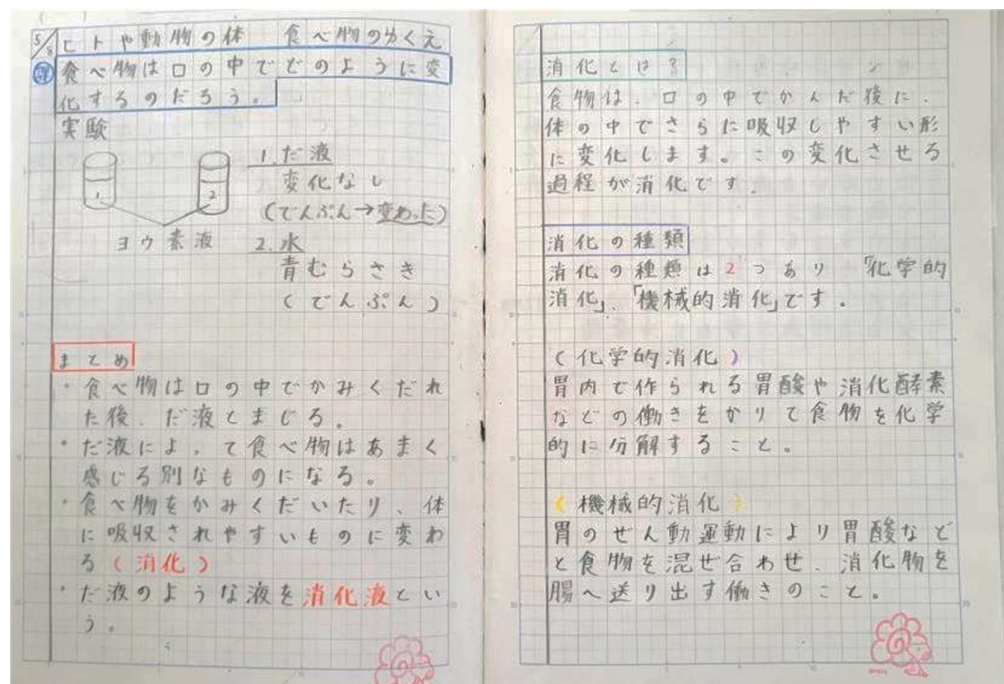
- ・母親のおなかの中での育ち方
- ・時間(何ヶ月? 何週間? 何日?)
- ・食べ物 栄養は?
- ・p46, p47 (たいばんへそのお羊水、子宮)

おなかの中に赤ちゃんがいる
母親に聞きたいこと。

- ・赤ちゃんは変化がおきると、
母親にも変化がおきることがある。

児童のノートより(6年生)

・・・確かめたことをふくらませる。



単元テスト達成率80%以上の児童の割合 (1学期・2学期)

	児童数	1学期	2学期
3年生	49人	95%	91%
4年生	57人	94%	92%
5年生	43人	90%	86%
6年生	49人	89%	85%

成果

(1) 授業の質の向上

- ① 1週間・1か月・1学期を見通した授業の研究ができた。
- ② 同学年の複数授業のため前時の反省を生かすことができた。
- ③ 年間を通した環境整備を行うことができた。
- ④ どの学年とも統一感のある授業ができた。
- ⑤ 課題発見解決学習をめざした授業スタイルを追求することができた。
- ⑥ 単元テスト平均80点以上の児童85%を達成できた。

13

成果

(2) 多面的な児童理解について

- ① 全校の3分の2の児童と関わるため、多くの児童と話をすることができた。
その結果、専科授業の中での児童の課題について、学校全体で共有することができた。
- ② 担任以外の職員と話をする児童が増えている。学校全体で、複数の目で児童のよさや困り感を見つけ、一人一人に合ったより適切な支援を行う雰囲気ができている。

14

課題と今後に向けて

(1) 本質的な課題解決学習の充実

- ① 基本的には授業の時間内に解決していきたいが、課題追究する時間が不足したり、授業内容の補完をしたりする時間が十分とれない。
- ② 担任と連携する時間が十分に確保できない。
- ③ 教材研究を深くするがゆえに、児童実態とかけ離れてしまうことがあった。
- ④ 3年生以上のすべての学年の内容が自分の中でつながっているのはよいが、前学年の既習事項は理解しているつもりで授業を行うことがある。あらためて実態に即した授業づくりが必要である。

課題と今後に向けて

(2) 多面的な児童理解について

- ① 個の課題について共有する機会は増えたが、今後取り組むべき課題の意識統一ができにくい。専科の授業でも気を付けることを連携し、共通確認していきたい。
 - ② 学級での時間と専科の時間との切り替えが難しい児童もいる。児童の実態や思いについて、可能な限り把握していきたい。
- (3) 教科担任制度の充実のためには十分な職員の数と教材研究や準備、担任等と連携する時間の確保が必要である。多様な職種や働き方がある中、カバーし合うことで、一人当たりの持ち時間数が多くなっている。